

北太平洋と日本におけるさけます類の資源と増殖

メタデータ	言語: Japanese
	出版者: 水産研究・教育機構
	公開日: 2024-07-03
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 上田, 周典
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2009603

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



さけます情報

北太平洋と日本におけるさけます類の資源と増殖

う え だ し ゅ う す け
上 田 周 典 (水産資源研究所 さけます部門 事業課)

2019 年の北太平洋

漁獲数

2020 年に公表された NPAFC 統計データによると、2019 年 1-12 月の北太平洋におけるさけます類の漁獲数は 5 億 6,328 万尾で、前年 6 億 5,392 万尾の 86%でした (図 1A)。

魚種別に見ると、カラフトマスが 4 億 507 万尾で最も多く、全体の 72% (前年比 86%) を占めています。次いでサケが 7,387 万尾 (構成比 13%, 前年比 74%), ペニザケが 7,557 万尾 (構成比 13%, 前年比 101%) と続き、これら 3 魚種で全体の約 98%を占めています (図 1A)。地域別では、ロシアが 3 億 3,411 万尾 (前年比 68%) と最も多く、次いでアラスカが 2 億 0,833 万尾 (前年比 179%) と両地域で全体の 96%以上を占めています。以下、日本 1,852 万尾 (前年比 53%), カナダ 96.3 万尾

(前年比 18%), アラスカ以外の米国 (ワシントン, オレゴン, カリフォルニア, アイダホ州) 137 万尾 (前年比 91%), 韓国 5.0 万尾 (前年比 52%) と続いています。アラスカの漁獲数は増加しましたが、アラスカ以外の米国、各国とも前年に比べて減少し、近年の減少傾向が目立ちます (図 1B)。

人工ふ化放流数

2019 年 1-12 月に各国から人工ふ化放流された幼稚魚数は 55 億 181 万尾で、前年 49 億 890 万尾の 110%でした (図 1C)。

魚種別ではサケが 34 億 6,883 万尾で約 6 割を占め、これに次ぐカラフトマス 13 億 5,680 万尾と合わせると全体の 9 割近くを占めます (図 1C)。地域別では日本が 19 億 1,789 万尾、アラスカ 17 億 589 万尾、ロシア 11 億 8,142 万尾、カナダ 3 億 8,440 万尾、アラスカ以外の米国 3 億 1,755 万尾、

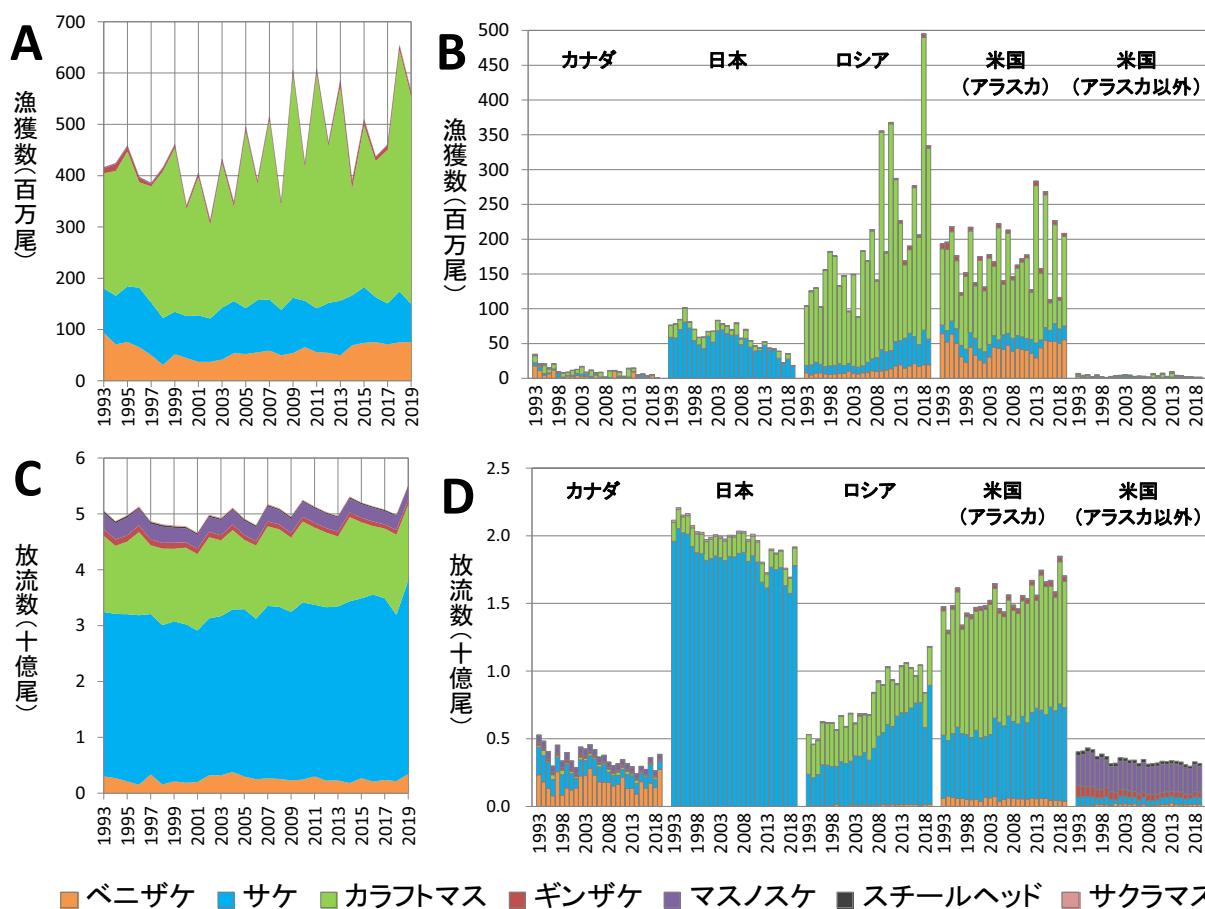


図 1. 北太平洋におけるさけます類の魚種別漁獲数 (A), 地域別魚種別の漁獲数 (B), 魚種別人工ふ化放流数 (C) 及び地域別魚種別の人工ふ化放流数 (D)。

A 及び B は「NPAFC Pacific salmonid catch statistics (updated 21 July 2020)」, C 及び D は「NPAFC Pacific salmonid hatchery release statistics (updated 21 July 2020)」より作成 (参照 2020-12-4)。アラスカ以外の米国はワシントン, オレゴン, カリフォルニア, アイダホ州の合計。韓国は他国に比べ漁獲尾数・放流尾数とも僅かなため図中では省略。

韓国 1,095 万尾となっています (図 1D)。

2020 年漁期の日本

サケ

2020 年漁期 (2020 年 8 月～2021 年 2 月) の来遊数 (沿岸漁獲と河川捕獲の合計) は 1 月 20 日現在で 2,016 万尾、前年同期比で 102% となっており、前年よりも若干増加はしたものの、引き続き低い水準となっています (図 2)。このうち北海道では 1,832 万尾 (前年同期比 104%)、本州太平洋側では 118 万尾 (前年同期比 70%)、本州日本海側では 66 万尾 (前年同期比 140%) となりました。採卵数は、1 月 20 日現在で 15 億 5,242 万粒と、前年同期の 99.6% となっています。このうち北海道は計画数の 94%、本州太平洋では、計画数の 45% でした。本州日本海では 115% と増加しましたが、全国の放流数は計画 (17 億 1,130 万尾) を大きく下回る見込みです。

カラフトマス

カラフトマスは 2 年で回帰するため、偶数年級と奇数年級で異なる繁殖集団を形成していると考えられます。主産地の北海道における来遊数の動向を見ると、奇数年級は 2007 年以降減少傾向を示しており、2019 年漁期 (2019 年 7 月～11 月) は 109 万尾 (前年比 16%) と、1983 年以降で最低の来遊数となりました (図 3)。偶数年級の来遊数は 2016 年に増加しましたが、2018 年から減少傾向を示し、2020 年は 473 万尾の回帰となりました。採卵数は 1 億 4,345 万粒で計画数の 83% となっており、放流数も計画 (1 億 3,840 万尾) を下回ると見込まれます。

サクラマス

2020 年漁期の北海道における河川捕獲数は 15,496 尾 (前年比 172%) となり、2000 年以降の平均の約 150% となりました。地域別には、オホーツク海区で前年比 193%、日本海区で 159%、根室海区で 154%、えりも以西海区で 200% と、どの地区も前年比を上回りました。採卵数は 761.7 万粒で、計画数の 152% となりました。なお、2020 年漁期の本州河川捕獲数については現在確認中です (図 4)。

ベニザケ

2020 年漁期の北海道 3 河川 (安平川・静内川・釧路川) における河川捕獲数は 1,292 尾で前年比 58.8% となりました。

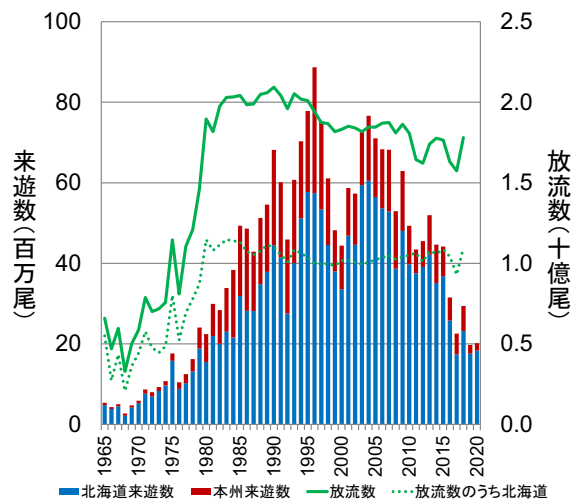


図 2. 日本におけるサケの来遊数と人工ふ化放流数 (2020 年漁期来遊数は 1 月 20 日現在)。

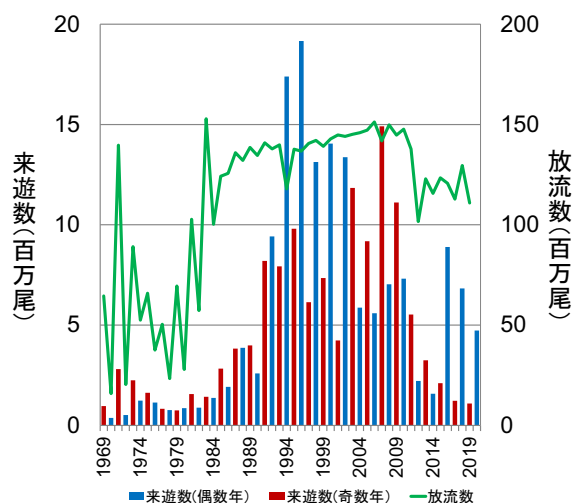


図 3. 日本におけるカラフトマスの来遊数と人工ふ化放流数。

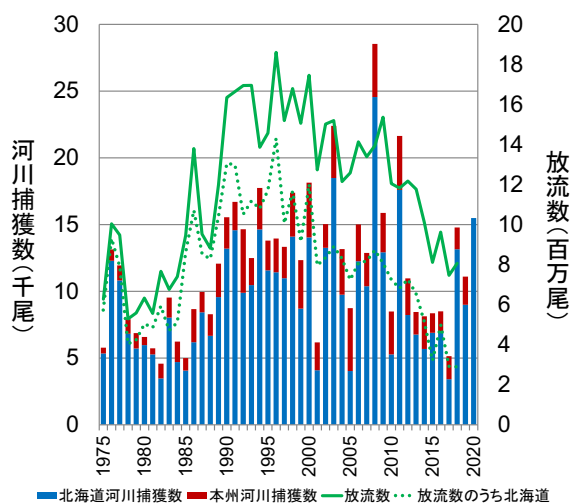


図 4. 日本におけるサクラマスの河川捕獲数と人工ふ化放流数 (2020 年漁期の本州河川捕獲数は確認中)。